

## ジベレリン利用によるりんどうの株養成期間短縮技術

りんどうの充実した定植直前の苗に、ジベレリン 100ppm を散布して定植すると処理当年の生育が旺盛になることにより株養成期間が短縮され、定植翌年の2年目から切り花収穫が可能になる。

### 具体的方法と生育経過

1. 使用するジベレリンの濃度は 100ppm とし、茎葉が十分に濡れる程度の散布量とする。
2. 処理時期は、定植直前の充実した3～4対葉時の苗に行う。
3. 無処理苗は、通常年にはほとんど抽だい(立茎)しないが、処理苗は処理当年に早期抽台して地上部・地下部共に生育量が増加し、越冬芽の質・量とも著しく優れ、定植2年目からの収穫が可能になる。
4. ジベレリン処理の生育促進効果は、処理年と次年度のみで、処理後3～4年株では無処理株とほぼ同等である。

表1 定植時処理した苗の経過年次別の収穫量(品種: マシリィ)

年次	区名	立茎数 <sup>2)</sup> (本/株)	収穫本数 <sup>3)</sup> (本/株)			
			S	M	L	合計
1年	処 50ppm	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	理 100ppm	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	区 500ppm	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	無処理区	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
2年	処理区 <sup>1)</sup>	8.3	1.1	1.4	0.5	3.0
	無処理区	4.6	0.6	0.0	0.0	0.6
3年	処理区	-	1.2	2.6	0.4	4.2
	無処理区	-	1.6	2.1	0.2	3.9
4年	処理区	-	1.1	2.9	0.2	4.2
	無処理区	-	1.9	2.5	0.0	4.4

1) 散布濃度: 100ppm

2) 株仕立て前の数

3) 岩手県経済連規格による



左: 無処理 右: 処理区

図1 処理苗1年目の生育量